

【乳汁検査まとめ】

はじめに

2019年から2021までの3年間、上半期・下半期に分けて乳汁検査の報告をしています。それぞれの報告は年ごとですので、今回は先月に引続きG(+)菌(※1)の感受性薬剤割合の推移を中心に報告したいと思います。

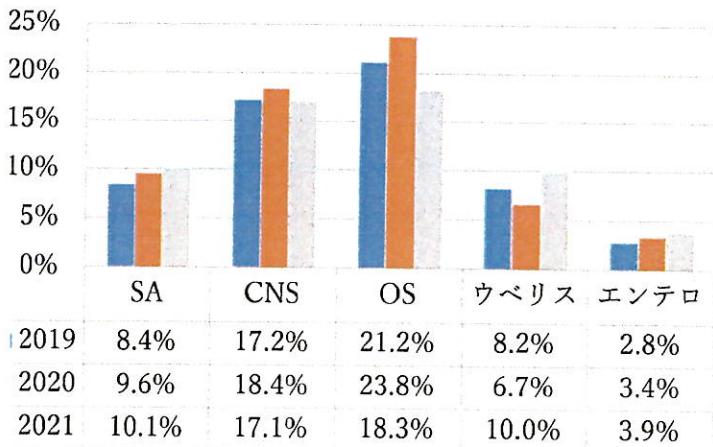
※1 今回紹介するG(+)菌はSA、CNS、OS、ウベリス

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
P	ペニシリン	ニューサルマイ
PLM	—	ピルスー
T	OTC注	OTC軟膏

G(+)菌検出数推移

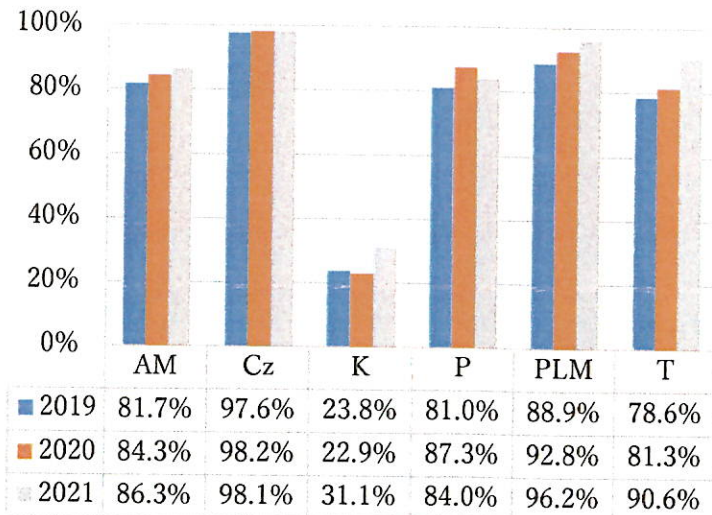
菌が検出された検体におけるSA、CNS、OS、ウベリス、エンテロコッカス(※2)の割合をグラフ1に示します。発生割合はSAが約10%、CNSが約17%、OSが約20%で大きくは変化してはいません。ウベリス、エンテロコッカスは多少の増減が見られました。



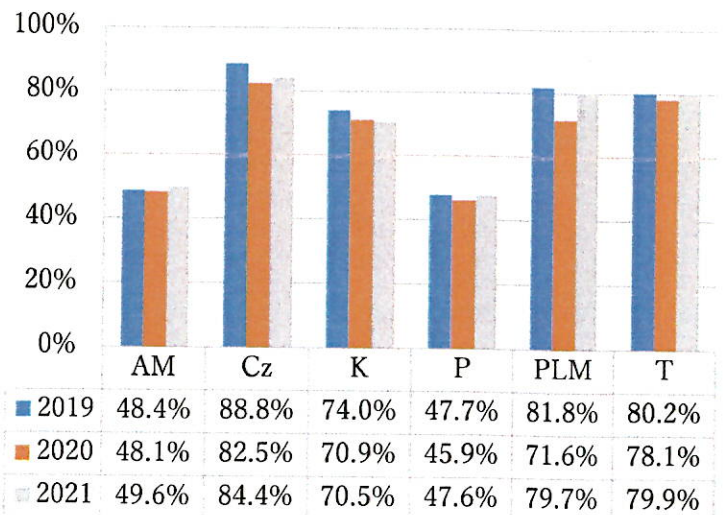
グラフ1 G(+)菌検出割合

※2 エンテロコッカスをエンテロと表記

G(+)菌感受性割合の推移



グラフ2 SA感受性割合の推移



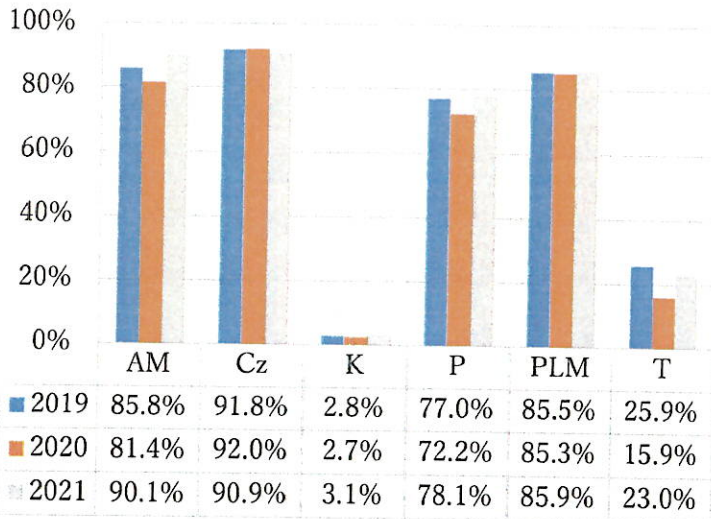
グラフ3 CNS感受性割合の推移



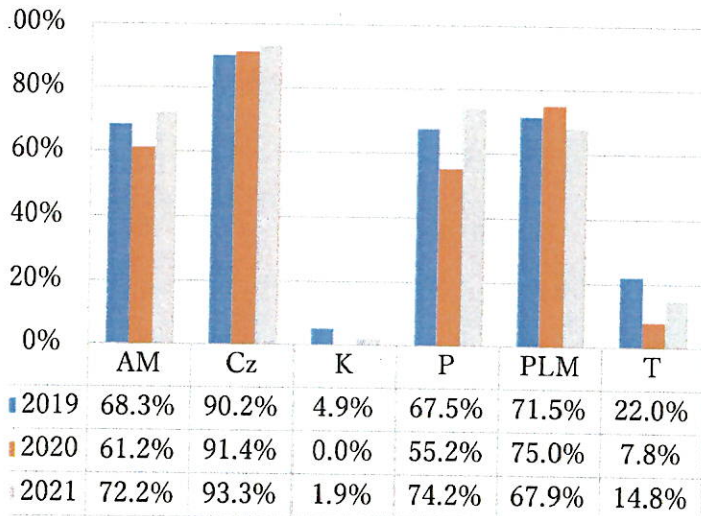
最後に

先月及び今月紹介した内容より、大腸菌群やクレブシエラでない乳房炎の場合は Cz を第一選択にして問題ないと思います。ただし Cz は感受性割合が高いとはいえ、100%ではありません。Cz による治療に対して反応が悪い場合は乳汁検査をすることをお勧めします。

富田大祐



グラフ 4 OS 感受性割合の推移



グラフ 5 ウベリス感受性割合の推移

グラフ 2～5 にて 2019 年から 2021 年までの 3 年間の SA、CNS、OS、ウベリスの感受性割合の変化を示しました。大腸菌群やクレブシエラに対する T の感受性割合の様に耐性傾向又は感受性割合の上昇は見られず、基本的には大きな変動はありませんでした。どの菌種において Cz が最も感受性割合が高い結果となりました。

エンテロコッカスについては、難治性の *Enterococcus faecalis*、*E. faecium* とその他のエンテロコッカス属とを同定していないため、今回は感受性割合の推移は紹介しませんでした。



Total Herd Management Service